

出典:日刊工業新聞 2006年11月24日(金曜日)

バイオメタン製造装置

吸着技術で小型化

日本総研社
など15社

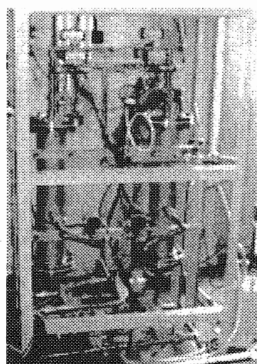
日本総合研究所(東京
都千代田区、木本泰行社

|||||

長、03・3288・4700)は、環境機器メーカーなど14社が参加するバイオガスイットワークコンソーシアムと協力し、吸着技術を応用したバイオメタン製造装置(写真)を開発した。同コンソーシアムは北海道2カ所と鹿児島県の合計3カ所で実用化に向けた実証実験を計画している。

生ゴミや畜産残渣物など有機性廃棄物を嫌気発酵させて製造するバイオメタンは、硫化水素など不純物を除去する必要がある。同装置は、これを気体の圧力差で吸着剤に吸着して取り除く仕組み。

従来のバクテリアなどによる生物脱硫と比べると装置を小型化できるのが特徴で、熱量を高めるためのメタン濃縮も同一の装置で行える。



同社は装置の小型化によって初期設備投資の大幅な削減が可能になるとし、小規模の下水処理場や食品加工工場、畜産農家向けなどのガス供給源として実用化を狙う。

幅な削減が可能になるとし、小規模の下水処理場や食品加工工場、畜産農家向けなどのガス供給源として実用化を